

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3991000047		
法人名	有限会社 沙羅		
事業所名	グループホーム なのはな		
所在地	高知県四万十市山路308-1		
自己評価作成日	平成26年4月10日	評価結果 市町村受理日	平成26年6月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでは利用者一人ひとりを個別的にケアできるよう、関わりを深く持ち、出来る事が継続できるようなケアを目指している。家庭的な雰囲気の中で自然な笑顔が出るような生活が送れるよう支援している。又、スタッフも利用者や家族と共に楽しみを見つけ共に笑い合っ、支え合っている関係作りを目指している。事業所の近くは四万十川が流れ、自然の景色が広がり、近くのゴルフ場の河川敷に散歩に行き、季節の風景を楽しむ事が出来る。事業所のすぐ近くには、津波の時に避難が出来る避難タワーも設置され、安全面も確保できている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JgvosyoCd=3991000047-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成26年5月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所のフロアでは季節感を出すために、職員が作った小さな紙の鯉のぼりを沢山飾るなど、和やかな楽しい空間のなかで理念である「尊厳ある笑顔の絶えない関係作り」を目指した取り組みが行われている。居室や共用空間の掃除やモップがけには利用者の手伝いもあり、作業を通じた職員と利用者の関係づくりができています。職員が活き活き働き、意見も言える職場環境がつけられ、職員同士の関係も良好である。防災対策では、避難場所の設置に伴う訓練に合わせて地域との連携もできつつある。利用者一人ひとりの思いや人格を大切にしたいケアが行われており、利用者の笑い声が聞かれ、穏やかに暮らせるよう地域と付き合いながら、積極的な事業運営が期待できる事業所である。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:つくし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域の中で変わりなく生活が続けられるよう、スタッフ会等でも理念を掘り下げて職員全体で話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図っている。。	「利用者の尊厳ある笑顔の絶えない関係づくり」という理念に基づき、職員は利用者の生活歴を把握し、地域の中で笑顔が多く見られるよう日々のケアに取り組んでいる。実践に結びつけるため、申し送り時や月1回のスタッフ会で話し合い、理念の共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加が出来るように地区長に情報を得たり、地域の小中学校との交流もある。近所のパン屋に月2回配達してもらっている。花を育てられている近所の方より花を頂いたりと交流している。	地域の秋祭りには、お神輿や子供達の踊りを見物に行き、小学校の運動会や発表会にも参加している。小・中学生の来訪もあり、利用者との交流が図られている。地域住民から生花をもらったり、冬は焚火をしている住民のところに散歩がてら出かけて交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の見学や相談などもあり、認知症の説明を分りやすく行っている。民生委員の訪問があった時には行事への参加や運営推進会議への参加もお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、事故ヒヤリハットなどの報告の他にも活動状況も報告できている。又、会議ごとに議題を定め、そのことについて話し合いが出来るようになってきている。そこで出た意見などは、必ずスタッフ会等で報告し、サービス向上になっている。	運営推進会議ではヒヤリハットや事故報告と対策、入居者状況や行事報告、評価結果等の報告が行われているが、それに基づく質疑応答が少ない。議事内容は議事録により全職員に周知している。	会議の参加メンバーから情報や意見をより多く得るために、議題や進行方法を検討することを期待したい。また、運営推進会議の意義を家族により深く知ってもらうために、議事録を全家族に届けて周知することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から分らない事は、すぐに相談し、担当者と密に連絡を取り合っている。	市担当課や地域包括支援センター職員には運営推進会議時に運営状況を伝え、意見や情報を得ている。また日頃から、介護認定更新の確認事項について電話などで連絡、相談するなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修で勉強してきた事をスタッフ会等で発表し、話し合いをしている。スタッフ一人ひとりが理解を深めるように勉強会を重ねている。	身体拘束に関する外部研修や月1回のスタッフ会で内部研修を行い、全職員が拘束の弊害への理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉による行動の抑止についても、職員同士が注意し合い、管理者もその都度注意している。安全対策としてのセンサーマット等の使用の際には家族と話し合い、了解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングを実施している。虐待が見過ごされたりしないようスタッフに連絡、相談、報告を徹底して利用者の様子を観察している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は制度について学んでいる。制度の活用事例があり、勉強会を通してスタッフの理解を深めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にゆっくり時間をとり、家族様に説明し納得の上、契約をしている。日々、質問等があれば聞いてもらうよう伝えとともに、常に家族の立場に立って説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。一件、意見がありスタッフ全員と話し合いをして改善をしている。管理者やスタッフは家族の面会時には状況を報告し、意見や要望などを気軽に出示てもらえるよう努めそれを反映させている。又、意見に対し改善策をスタッフ間で話し合えるよう家族ノートの作成もしている。	家族会は年1回クリスマス行事に合わせて開催している。家族の意見で、事業所の位置がわかりやすい看板を準備中である。家族からの意見等を「家族との連絡ノート」に記録し、全職員で確認のうえ対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月ごとの管理者会の内容をスタッフ全員で共有するとともに、スタッフ会や日々の申し送りの時に意見や提案を聞き取り、まとめて代表者に報告し運営に反映させている。	スタッフ会等で職員の意見や提案を聞いており、安全対策で洗面所に手摺をつける提案等に、直ぐに対応している。職員は常に利用者の喜ぶことを考え、行事ではストーリーを考え寸劇をしたり、雑祭りには利用者に寿司を握ってもらうなど、職員から提案がよく出され運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの意見を真剣に汲み上げ、やりがいの持てる職場になるよう努めている。4月より給与面での改善があり、スタッフのモチベーションアップになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て、外部研修はなるだけ多くの職員が受講できるようにしている。又、研修後はスタッフ会で伝達講習を行い、職員個々の実践力をつけるようにしている。又、スタッフの資格取得のために勤務時間を工夫するなど配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループホームとの交流や、市内のグループホーム連絡会等に参加して意見交換等を定期的に行い、良い部分を聞き、サービス向上を目指している。又、見学の機会を多く持ち、参考にしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談やホームの見学時に、生活状況やこれまでの楽しみ、生きがいなどを傾聴し、担当職員を決め、常に身近にいて安心して過ごしてもらう関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの本人と家族の関わりや要望などに応えられるようゆっくり話し合い、意向を引き出し実践出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を十分に把握し、入居できるまでさまざまなサービスを勧めたり他の事業所の空き情報も調べ、紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできる能力を活用し、家事や趣味を楽しみ、スタッフと共に生活を営んでいる。特に行事の時は、利用者に料理を教えて頂き、共に作り、劇などにも参加して頂き楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には毎月便りを出し生活状況や行事内容も伝えるとともに、本人の意向、身体状態、気になる事など、電話連絡し確認も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の馴染みの方が訪れ交流しており、ゆっくり過ごしてもらうよう配慮している。又、家族の協力を得て、思い出の場所や馴染みの場所へ行ったり、好きな事、本人の楽しいと感じる事を一緒にし、親族との関係を継続するなど支援する。	利用者の友人や家族が気軽に事業所へ立ち寄れるよう配慮している。利用者の元職場の友人からの電話や訪問など、馴染みの方の訪問も多い。馴染みの美容院や喫茶店、また利用者の自宅を見に帰ったり、家族の協力も得て馴染みの場所や人との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、職員が間に入り仲立ちしたり、気の合う仲間と互いに支え合っていく良い関係が築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族に契約終了後も、気軽に相談してもらえるよう伝えている。又、ホームにも気軽に遊びに来てもらえるよう声掛けしている。又、何度か施設の方へ家族と遊びに来られた利用者もおられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩やおやつ等みんなのくつろぎの時間を大切にしながら入居者の声を傾聴するよう心掛けるとともに、日々の関わりの中で表情やしぐさなどを見逃さないようにし、入居者の個別の立場に立ち、思いや要望を把握している。	日々の関わりの中で利用者の何気ない一言や、新たに把握した事を「気付きノート」に記録し、利用者の思いを全職員が共有している。3カ月毎に生活歴のフェイスシートも書き換えている。利用者の趣味や嗜好の要望に応え、2日に1回の買出し日には職員と利用者と一緒に出かけ買い物をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、入居前の担当ケアマネジャー等からこれまでの生活歴や、サービスの利用状況など詳細を聞いている。会いに来てくれる友人や知人にも話を聞くなどして把握し状況に合わせて実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアや会話の中で、一人一人の有する力、心身状態など気づいた事は気づきノート等に記し、スタッフ全員が共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に介護計画の意味と重要性を説明し、要望を聞くとともに、チームケアとしてスタッフの意見や気づきを反映しながら、今、何が必要かを考え問題点を解決できる介護計画を作成している。	利用者ごとに担当者を決め、毎月モニタリングを行っている。日頃から家族の意向や要望を確認し、ケアを通して得た情報を職員間で共有しながら話し合い、プランを検討・作成している。3カ月毎に見直しを行い、状況に変化が生じた場合は、その都度見直し柔軟な対応に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践状況や日々の様子、気づきなどをケア記録に詳細に記録し、スタッフ間で共有するとともに介護計画の見直しに活かしている。又、日々の身体状況なども生活チェック表にまとめ主治医が一目で分かるように詳細に記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院支援や本人の必要な物の買い足しなどの支援をしている。また希望に応えられるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの小学校へ運動会や発表会の招待を受け参加させてもらっている。又、花を良心市へ出品している近所の農家の方と会うので、散歩時などあいさつを心がけつながりが持てるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医で受診してもらっている。受診は家族の同行となっているが、夜間の詳しい状況説明はスタッフも同行し説明する事もある。	利用者及び家族の希望により入居前のかかりつけ医や事業所の協力医をかかりつけ医とし、受診に際して家族への支援を行っている。協力医からは月2回の往診がある。専門医の初診時には家族に同行してもらい、次回からは職員が対応している。受診結果は「受診記録ノート」により職員間で共有し、変化があれば家族に連絡している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一週間に一度看護師の訪問を受け、健康管理面のアドバイスを貰ったり、日々の体調面を報告し急変時の相談など迅速な対応を行っている。又、注意する事や、相談事も受診ノートにまとめ、スタッフ全員が共有できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、定期的に病院に行き本人と面会し、安心して治療が出来るように支援している。又、家族や病院相談員と密に連絡を取り合い、早期退院できるように、話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針に沿って、利用者家族に説明し意向の確認をしている。当初は入院を希望しているが、入居後はできるだけ事業所で過ごすことを希望する利用者家族もあり、医療とも連携しチームケアをしている。	重度化及び看取りに関する指針を作成しており、契約時に説明しているが、同意書は作成されていない。今まで看取りの事例はないが、今後家族からの要望があれば家族と話し合い、支援することとしている。	重度化や終末期への今後の対応に備え、看取りの指針に基づく事業所としての方針を明確にし、看取りに関する外部研修への参加や勉強会を行い、職員間の意思統一も含めて体制を築いていくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ会や申し送り時に、事故発生時の勉強会をしている。慌てずに連絡を取り合えるよう実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策に迅速な対応ができるように定期的な訓練を実施している。特に地震対策として津波に備え近くに避難タワーが完成し、地域住民と共に訓練を重ねている。今後も近くに大規模な避難場所ができるという事を地域の方から情報を頂く。	年2回、事業所独自の火災訓練を実施している。昨年は地域住民の参加はなかったが、今年は運営推進会議メンバーである民生委員の参加協力が得られ、12月に消防署の指導による訓練を予定している。地域の地震訓練には利用者と共に参加して訓練を重ね、食糧、備品類は消費期限を確認のうえ備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格、誇りを大切にしたケアについてスタッフ会や申し送り時に繰り返し勉強会を行い、その人の尊厳を大切に、スタッフの意識づけに努めている。	利用者には1人ひとりの思いを大切に、人格を尊重して利用者に同意を得るような声かけを心がけている。利用者のプライバシーの確保についても職員に徹底しており、管理者は気になる言葉遣いがあればその都度注意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを始める前には、まず利用者へ確認し、言葉や表情などから思いや希望を多く聞ける雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな時間の区切りはあるが、本人の生活リズムをなるべく崩さないように心掛けている。その日の過ごし方など個々の希望も聞いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の更衣は本人の意向を大切に、スタッフは見守り声掛け、相談に応じる支援をしている。また外出時には、化粧をしたり洋服と一緒に選んだり、おしゃれを楽しむように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞きながら献立を考えたり、誕生日の昼食は本人の食べたいものを事前に聞いて出すようにしている。テーブル拭き、片付け等の個別の役割を持ってもらうよう支援している。	食事の下ごしらえやテーブル拭き、食器の片付けなど利用者の出来ることを手伝ってもらい、職員は見守りながら同じ食事を取っている。「刺身」や「ステーキ」等利用者の希望する食べ物もメニューに取り入れられ、茶碗、コップ、箸は各自持ち込みの物を使用し、職員と会話しながら楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事摂取量と水分量を記録し、食事量が少ない場合は形態を工夫したり好みの味付けや献立にするなどしている。月に一度、体重測定もしている。水分量が少ない利用者にはお茶やコーヒー等をゼリー状にするなど、工夫してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の状態に合わせて、口腔ケアを徹底している。本人のできる事はしてもらい出来ない部分は介助しながら、口腔内のチェックはスタッフが行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや尿意の表情や動作を見逃さずに、出来るだけトイレで排泄できるよう支援している。又、退院後は紙パンツから布パンツへ移行した利用者もおり、自立へ向けた支援を目指している。	個別の排尿、排便の記録から排泄パターンを把握して、トイレに歩いて行ける利用者には耳元で誘導している。日中は布パンツ、夜間はパッドやポータブルトイレも使用しながら自立支援に努めている。支援の結果、入居後3名の利用者が紙パンツから布パンツに移行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を多く出来るよう、味の違う飲み物を作ったり、起床時に牛乳を提供したり、朝食時はヨーグルトとバナナを必ず出している。入浴時には腹部マッサージをしたり、散歩や体操を積極的に取り入れ自然排便ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞きながら入浴支援をしている。入浴を嫌がる入居者には時間を置いて声掛けするなどして、それでも入浴しない入居者には清拭などをして清潔を保てるよう支援している。週に一度は必ず入浴してもらうよう「日曜日は入浴日」と自室に張り紙をしたり、カレンダーに記入しその日は必ず入浴していただいている。	本人の希望に沿って入浴支援を行い、概ね2日に1回の入浴が多くなっているが、毎日入浴する利用者もいる。入浴を拒否する利用者には声かけの職員を交代するなど、誘導方法を工夫して入浴を楽しんでもらう支援に努め、清潔保持のため入浴日を定めて取り組むほか、清拭での対応も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の生活習慣を大切に、ホールの畳コーナーでいつでも臥床できるように毛布などを置いている。また昼夜逆転しないよう日中の活動を増やし活動的に楽しく過ごせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の用法や用量を間違わず、スタッフ全員で共有し、服薬時には利用者の顔を見て名前を言って服薬するよう声を掛け合っている。薬の副作用、薬剤情報について勉強する機会を増やしていく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフは入居者一人一人の生活歴や楽しみを把握し、コミュニケーションを通してその日の過ごし方を聴き、生活に張りりが持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	体調や天候を見ながら、散歩や買物に行っている。その日の希望に添えない時は納得してもらい、別の日に声掛けするなど対応している。ドライブも頻繁にし気分転換もしている。季節の花を見に行き外食を楽しんでいる。	天気の良い日は近くのゴルフ場や県道を挟んだ前の避難タワーに出かけている。2日に1回の買い物には利用者も一緒に出かけ、事業所周辺のドライブにも出かけている。季節の花見や外食にも出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人家族の希望に応じて、ホームで預かったり本人が所持したりしている。本人が支払いできるように介助したり、本人が欲しいものを代行で買物してくる等の支払いも行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話を掛ける事が出来るよう支援している。手紙を出す事例はないが、年賀状は家族に出すよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには花を活けたり、ベランダを見れば季節の花を植えている。紙飾りなどで季節感をだすよう努めている。室温に配慮したり、足音や物音で不快感を与えないように配慮し、居心地良く過ごせるよう工夫している。又、食事時には歌を流しゆっくり食事を楽しむようにしている。	玄関やフロアには生花が活けられ、居室、フロアの掃除は行き届いている。通路の壁面には外出時の利用者の写真が貼られ、フロアには季節を表した植物等の塗り絵などが飾られている。利用者はゆったりとしたソファや、畳コーナーで思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う仲間同士で過ごせるようソファでくつろげる空間がある。テレビを見たくない入居者は畳で雑誌、新聞を読んだり一人になりたい時には自室に戻り自由に思い思いに過ごしている。利用者の表情をくみ取り声掛けをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使っていた馴染みの物や好みの物を自由に持ってきてもらうよう説明し、お願いしている。花、植物、写真を入居者の好みに合わせ飾っている。	居室には馴染みのタンス、テレビ、椅子、置時計や家族写真が置かれ、自作の塗り絵を貼るなど、利用者がその人らしく居心地良く過ごせる工夫をしている。母の日に事業所から鉢植えのカーネーションを贈るなどの配慮が見られ、押入れに衣類等が収納されて生活しやすい環境にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりに合った個別性の要望を聞き入れ、生活できるように工夫している。トイレの目印の張り紙や照明などにも配慮している。又、各利用者の入り口には名前を書き、安心してもらっている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名:れんげ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域の中で変わりなく生活が続けられるよう、スタッフ会等でも理念を掘り下げて職員全体で話し合い具体的なケアについて意見の統一を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加が出来るように地区長に情報を得たり、地域の小中学校との交流もある。近所のパン屋に月2回配達してもらっている。花を育てられている近所の方より花を頂いたりと交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の見学や相談などもあり、認知症の説明を分りやすく行っている。民生委員の訪問があった時には行事への参加や運営推進会議への参加もお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、事故ヒヤリハットなどの報告の他にも活動状況も報告できている。又、会議ごとに議題を定め、そのことについて話し合いが出来るようになっている。そこで出た意見などは、必ずスタッフ会等で報告し、サービス向上になっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から分らない事は、すぐに相談し、担当者と密に連絡を取り合っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修で勉強してきた事をスタッフ会等で発表し話し合いをしている。スタッフ一人一人が理解を深めるように勉強会を重ねている。		

7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会やミーティングを実施している。虐待が見過ごされたりしないようスタッフに連絡、相談、報告を徹底して利用者の様子を観察している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は制度について学んでいる。制度の活用事例があり、勉強会を通してスタッフの理解を深めていく。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時にゆっくり時間をとり、家族様に説明し納得の上、契約をしている。日々、質問等があれば聞いてもらうよう伝えとともに、常に家族の立場に立って説明するようにしている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置している。一件、意見がありスタッフ全員と話し合いをして改善をしている。管理者やスタッフは家族の面会時には状況を報告し、意見や要望などを気軽に出示てもらえるよう努めそれを反映させている。又、意見に対し改善策をスタッフ間で話し合えるよう、家族ノートの作成もしている。</p>		
11	(7)	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>2ヶ月ごとの管理者会の内容をスタッフ全員で共有するとともに、スタッフ会や日々の申し送りの時に、意見や提案を聞き取り、まとめて代表者に報告し運営に反映させている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>スタッフの意見を真剣に汲み上げ、やりがいの持てる職場になるよう努めている。4月より給与面での改善があり、スタッフのモチベーションアップになっている。</p>		

13	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間研修計画を立て、外部研修はなるべく多くの職員が受講できるようにしている。又、研修後はスタッフ会で伝達講習を行い、職員個々の実践力をつけるようにしている。又、スタッフの資格取得のために勤務時間を工夫するなど配慮している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同系列のグループホームとの交流や、市内のグループホーム連絡会等に参加して意見交換等を定期的に行い、良い部分を聞き、サービス向上を目指している。又、見学の機会を多く持ち、参考にしている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前の面談やホームの見学時に、生活状況やこれまでの楽しみ、生きがいなどを傾聴し、担当職員を決め、常に身近にいて安心して過ごしてもらう関係を築くように努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>これまでの本人と家族の関わりや要望などに応えられるようゆっくり話し合い、意向を引き出し実践出来るように努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族の意向を十分に把握し、入居できるまでさまざまなサービスを勧めたり他の事業所の空き情報も調べ、紹介している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者のできる能力を活用し、家事や趣味を楽しみ、スタッフと共に生活を営んでいる。特に行事の時は、利用者 に料理を教えて頂き、共に作り、劇などにも参加して頂き楽しんでいる。</p>		

19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族には毎月便りを出し生活状況や行事内容も伝えるとともに、本人の意向、身体状態、気になる事など、電話連絡し確認も行っている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居者の馴染みの方が訪れ交流しており、ゆっくり過ごしてもらおうよう配慮している。又、家族の協力を得て、思い出の場所や馴染みの場所へ行ったり、好きな事、本人の楽しいと感じる事を一緒にし、親族との関係を継続するなど支援する。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者同士の関係を把握し、職員が間に入り仲立ちしたり、気の合う仲間と互いに支え合っていく良い関係が築けるように支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>家族に契約終了後も、気軽に相談してもらえるよう伝えている。又、ホームにも気軽に遊びに来てもらえるよう声掛けしている。又、何度か施設の方へ家族と遊びに来られた利用者もおられる。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>散歩やおやつ等みんなのくつろぎの時間を大切にし入居者の声を傾聴するよう心掛けるとともに、日々の関わりの中で表情やしぐさなどを、見逃さないようにし、入居者の個別の立場に立ち、思いや要望を把握している。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人や家族、入居前の担当ケアマネジャー等からこれまでの生活歴や、サービスの利用状況など詳細を聞いている。会いに来てくれる友人や知人にも話を聞くなどして把握し状況に合わせて実践している。</p>		

25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日々のケアや会話の中で、一人一人の有する力、心身状態など、気づいた事は気づきノート等に記し、スタッフ全員が共有できるよう努めている。</p>		
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族に介護計画の意味と重要性を説明し、要望を聞くとともにチームケアとしてスタッフの意見や気づきを反映しながら、今、何が必要かを考え問題点を解決できる介護計画を作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケアの実践状況や日々の様子、気づきなどをケア記録に詳細に記録しスタッフ間で共有するとともに介護計画の見直しに活かしている。又、日々の身体状況なども生活チェック表にまとめ主治医が一目で分かるように詳細に記録している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の状況に応じて通院支援や本人の必要な物の買い足しなどの支援をしている。また希望に応えられるよう取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近くの小学校へ運動会や発表会の招待を受け参加させてもらっている。又、花を良心市へ出品している近所の農家の方と会うので散歩時などあいさつを心がけながら持っている様支援している。</p>		
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族の希望するかかりつけ医で受診してもらっている。受診は家族の同行となっているが、夜間の詳しい状況説明はスタッフも同行し説明する事もある。</p>		

31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>一週間に一度看護師の訪問を受け、健康管理面のアドバイスを貰ったり、日々の体調面を報告し急変時の相談など迅速な対応を行っている。又、注意する事や、相談事も受診ノートにまとめ、スタッフ全員が共有できている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した場合は、定期的に病院に行き本人と面会し、安心して治療が出来るように支援している。又、家族や病院相談員と密に連絡を取り合い、早期退院できるように、話し合っている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に看取りの指針に沿って、利用者家族に説明し意向の確認をしている。当初は入院を希望しているが、入居後はできるだけ事業所で過ごすことを希望する利用者家族もあり、医療とも連携しチームケアをしている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>スタッフ会や申し送り時に、事故発生時の勉強会をしている。慌てずに連絡を取り合えるよう実践力を身に付けている。</p>		
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害対策に迅速な対応ができるように定期的な訓練を実施している。特に地震対策として津波に備え近くに避難タワーが完成し、地域住民と共に訓練を重ねている。今後も近くに大規模な避難場所ができるという事を地域の方から情報を頂く。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>入居者一人ひとりの人格、誇りを大切にしたケアについてスタッフ会や申し送り時に繰り返し勉強会を行い、その人の尊厳を大切に、スタッフの意識づけに努めている。</p>		

37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを始める前には、まず利用者へ確認し、言葉や表情などから思いや希望を多く聞ける雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな時間の区切りはあるが、本人の生活リズムをなるべく崩さないように心掛けている。その日の過ごし方など個々の希望も聞いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の更衣は本人の意向を大切に、スタッフは見守り声掛け、相談に応じる支援をしている。また外出時には、化粧をしたり洋服と一緒に選んだり、おしゃれを楽しむように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞きながら献立を考えたり、誕生日の昼食は、本人の食べたいものを事前に聞いて出すようにしている。テーブル拭き、片付け等の個別の役割を持ってもらうよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事摂取量と水分量を記録し、食事量が少ない場合は形態を工夫したり好みの味付けや献立にするなどしている。月に一度、体重測定もしている。水分量が少ない利用者にはお茶やコーヒー等をゼリー状にするなど、工夫してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の状態に合わせて、口腔ケアを徹底している。本人のできる事はしてもらい出来ない部分は介助しながら、口腔内のチェックはスタッフが行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや尿意の表情や動作を見逃さずに、出来るだけトイレで排泄できるよう支援している。又、退院後は紙パンツから布パンツへ移行した利用者もあり、自立へ向けた支援を目指している。		

44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分摂取を多く出来るよう、味の違う飲み物を作ったり、起床時に牛乳を提供したり、朝食時はヨーグルトとバナナを必ず出している。入浴時には腹部マッサージをしたり、散歩や体操を積極的に取り入れ自然排便ができるよう支援している。</p>		
45	(17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>本人の希望を聞きながら入浴支援をしている。入浴が好きで毎日希望の利用者には時間を調整して入浴して頂いている。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>入居前の生活習慣を大切にし、ホールの畳コーナーでいつでも臥床できるように毛布などを置いている。また昼夜逆転しないよう日中の活動を増やし活動的に楽しく過ごせるようにしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個々の薬の用法や用量を間違わず、スタッフ全員で共有し、服薬時には利用者の顔を見て名前を言って服薬するよう声を掛け合っている。薬の副作用、薬剤情報について勉強する機会を増やしていく。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>スタッフは入居者一人ひとりの生活歴や楽しみを把握し、コミュニケーションを通してその日の過ごし方を聴き、生活に張りが持てるよう支援している。</p>		
49	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>体調や天候を見ながら、散歩や買物にいつている。その日の希望に添えない時は納得してもらい、別の日に声掛けするなど対応している。ドライブも頻繁にし気分転換もしている。季節の花を見に行き外食をして楽しんでいる。</p>		

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人、家族の希望に応じて、ホームで預かったり本人が所持したりしている。本人が支払いきるよう介助したり、本人がほしいものを代行で買物してくる等の支払いも行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があればいつでも電話を掛ける事が出来るよう支援している。手紙を出す事例はないが、年賀状は家族に出すよう支援している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロアには花を活けたり、ベランダを見れば季節の花を植えている。紙飾りなどで季節感を出すよう努めている。室温に配慮したり、足音や物音で不快感を与えないように配慮し、居心地良く過ごせるよう工夫している。又、食事時には歌を流しゆっくり食事を楽しむようにしている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う仲間同士で過ごせるようソファでくつろげる空間がある。テレビを見たくない入居者は畳で雑誌、新聞を読んだり、一人になりたい時には自室に戻り自由に思い思いに過ごしている。利用者の表情をくみ取り声掛けをしている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前に使っていた馴染みの物や好みの物を自由に持ってきてもらうよう説明し、お願いしている。花、植物、写真を入居者の好みに合わせ飾っている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者、一人ひとりに合った個性の要望を聞き入れ生活できるように工夫している。トイレの目印の張り紙や照明などにも配慮している。又、各利用者の入り口には名前を書き、安心してもらっている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい			○	2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				